

御手洗地区との意見交換会で寄せられた意見（令和7年12月協議）

（テーマ）・御手洗地区の防災について

No	御手洗地区からの主な意見	常任委員会での協議内容（執行部からの回答）
1	<p>毎年のように同一箇所でも氾濫が発生しており、対処療法的な対応にとどまっている。 （相川新町の街中を通る2つの川の交流箇所）</p>	<p>【産業建設常任委員会】</p> <p>相川新町の中を流れる河川については、隣接する家屋等への影響も多いことから、令和元年度から河川の複断面化を行い、排水能力の向上を図ったところです。近年の想定を超える降雨への対応については、今後雨水管理総合計画において根本的かつ全市的な整備方針を定め、優先順位をつけて対策を進めたいと考えています。なお、来年度の町内会要望として、相川新町から町内を流れる河川の護岸のかさ上げが要望されています。町内会が主体となって行う事業として、来年度予算に補助金を計上したいと考えています。</p>
2	<p>市として、根本的な治水対策を含む長期的な計画を立て、改善の時期や工程を明確にしてほしい。</p>	<p>【産業建設常任委員会】</p> <p>現在策定中の雨水管理総合計画において、市内の中長期的な整備方針を定め、優先順位をつけて対策を進める予定であり、現時点で明確な時期等はお示しできませんが、今後治水対策が着実に進められるよう、事業化に向けた取組を進めてまいります。</p>
3	<p>今まで浸水被害はほとんどなかったが今年は2回被害があった。御手洗地区には4つの大きな川があり、川が合流する低い場所で被害があった。川下の改修だけでは不十分だと考えており、川上も含め全体として河川の改修について考え、対応してほしい。</p> <p>【意見交換会での担当班（議員）の回答】</p> <p>議会での一般質問でも浸水対策としての治水を進めるよう意見を述べている。執行部からも、市として伴走対応できないか検討すると回答を得ている。さらに、市全体の雨水排水状況を調査するとのことだった。改めて、執行部に白山市全域における治水について再考するよう提案する。</p>	<p>【産業建設常任委員会】</p> <p>近年頻発する浸水被害は、これまでの想定を超える雨量によるものと考えています。なお、相川新町をはじめ、市内全体の防災力を高める必要がありますので、現在策定中の雨水管理総合計画において、全市的な整備方針を定め、優先順位をつけて対策を進めていきたいと考えています。</p>

4	<p>ハザードマップの配布だけでなく、住民が内容を理解し、実際の避難行動に結びつけられるような取組が必要。</p>	<p>【総務企画常任委員会】</p> <p>令和6年度末に全戸配布したハザードマップには、浸水想定区域図だけでなく、避難場所や避難方法等も記載しております。各家庭におかれましては、これらを御活用いただき、避難場所を再確認していただきますとともに、マイタイムラインの作成を推進し、事前に取り組むべき防災行動を自らが整理できるよう啓発を行っております。引き続きこれらの取組について、市ホームページや広報等を通じて定期的に周知を行い、それぞれが日常生活の中で防災計画を具体化できる機会の醸成を図りたいと考えております。</p>
5	<p>他市や他地区で実施している「深読み防災マップ（住民で読み解く活動）」のような形を参考に、どのような行動がよいのかを考える機会とするのはどうか。</p>	<p>【総務企画常任委員会】</p> <p>地域コミュニティ組織や自主防災組織が実施する防災訓練において、ハザードマップ等により、地域の事情に合わせた講習会を開催することによって、住民が自らの生活圏のリスクを自分の目で確かめ、それに沿った具体的な行動により、実際の防災力の底上げにつながると認識しております。市といたしましても、各地域の要望に応じて、講師の派遣等により積極的に携わっていきたいと考えております。</p>
6	<p>「防災意識をどう高めるか」ということについて、また避難訓練に参加したくなる仕掛けなどの情報発信について工夫が必要である。市からも呼びかけや支援をお願いしたい。</p>	<p>【総務企画常任委員会】</p> <p>イオンモール白山や白山野々市広域消防本部において開催される防災フェスタや防災学習フェアは、身近に防災を学ぶ貴重な機会であります。市と民間施設、広域消防本部などと連携し、こうしたイベントにおける啓発ブースの充実を図り、市民の皆様の関心を高めるとともに、実際に参加いただくことによって、防災に関する知識や技能の習得を促していきたいと考えております。また、地域コミュニティ組織や地区自主防災組織が実施する防災訓練において、起震車をはじめ消防ポンプ自動車等の展示など、多くの方に防災意識を高めてもらえるような機材の手配についても支援していきたいと考えております。</p>

7	<p>安否確認は基本的に町の中で役割分担をしているが、実際に津波が起こったら担当者が高齢者等の安否を確認することは困難で、家族と避難することが優先となる。訓練でしているような安否確認は現実的でない。安否確認のデジタル化を進めてほしい。</p> <p>【意見交換会での担当班（議員）の回答】 ゆいネットなどは有効な手段であると考えており、以前から執行部に提案している。改めて意見として申し伝える。</p>	<p>【総務企画常任委員会】</p> <p>災害時の安否確認については、各携帯電話会社で安否確認アプリがあり、家族間で利用できます。しかし今回は津波を想定した防災訓練の課題ということですので、町内の住民間での確認であれば、結ネットなどの電子回覧版アプリを使うことも1つの方法だと考えます。市としましても、安否確認ができる機能も含めたデジタル化を進める必要があると思いますので、来年度実施予定の電子回覧版導入に向けた市民アンケートの結果も見ながら、導入するツールを考えていきます。一方で、アプリが使える端末を所持していない高齢者や、東日本大震災のような災害時に通信インフラや電源が破壊される場合も想定されますので、アナログで安否確認する訓練も必要だと考えております。</p>
8	<p>実施している避難訓練は、行政から言われたものを基準に行っているが、実際の災害想定と乖離があるのではないかと疑問が残る。御手洗地区のように津波が想定される地区用の対策を示してほしい。津波で避難する際、海岸から遠い住民は津波の可能性が低いにも関わらず避難しようとするため、道路が渋滞となる。海岸沿いではない住民への正しい避難の方法について啓発してほしい。</p> <p>【意見交換会での担当班（議員）の回答】 津波を想定した避難場所や対策、訓練について執行部から対応について示してもらえよう要望する。</p>	<p>【総務企画常任委員会】</p> <p>津波被害が想定される相川新町においては津波注意報等が発表された想定での避難訓練を毎年実施しており、多くの住民の方に参加いただいております。これらの取組を通じて、一人一人が自分ごととして防災を捉え、日頃からの備えと訓練が支援に結びつく循環となりますよう、引き続き訓練等の支援を行いたいと考えております。また新年度から運用開始になります白山市役所危機管理センターにより、災害時には迅速かつ的確に情報提供や避難支援等を行い、市民の皆様には、居住地の避難経路を日常的に確認いただきますとともに、公式の発表や避難情報の受信に努めていただきますよう、広報等を通じて協力をお願いするほか、現場の声をお聞きし、実効性の高い啓発と訓練の充実に努めていきます。</p>